

令和6年4月19日

隠岐支庁 農林水産局 農業振興部

標 題 隠岐地域で水稲の高温障害に関する研修会を開催！

(ダイジェスト)

温暖化による高温障害が続く昨今、高温障害対策は喫緊の課題となっています。隠岐地域では、高温障害対策を考える場として、「令和6年度第一回隠岐地域水稲研修会」を開催しました。研修会では、令和5年産米の等級、気象を振り返った後、高温が水稲にもたらす影響とその対策について、農業技術センター技術普及部より講義してもらいました。

令和5年産米は‘コシヒカリ’を中心に夏季の高温による白未熟粒が多く発生し、一等米比率が低下しました。また、過度な高温は、水稲の収量低下に繋がることも知られています。一等米比率と収量は、稲作の収益に直結する重要な要素であり、今後も温暖化の影響による夏季の高温が予想される中、高温障害対策は喫緊の課題となっています。

そこで、稲の活力維持に繋がる基本的な耕作技術について、改めてその意義を確認し、今すぐ取り組める高温障害対策を考える場として、隠岐農業振興協議会の主催で「令和6年度第一回隠岐地域水稲研修会」を海士町で4月8日、隠岐の島町で4月9日に開催しました。

研修会では、初めに令和5年産米の一等米比率について確認した後、令和5年の気温推移等を示し、高温障害の状況を確認しました。続いて、農業技術センター技術普及部より「高温障害の発生メカニズムとその対策について」と題して、高温が水稲にもたらす影響とその対策について講演してもらいました。

講演後は、「春作業で取り組むべきことはあるか」、「今年の降水はどうなるか」、「‘コシヒカリ’に代わる高温に強い品種はあるか」等、海士町・隠岐の島町それぞれの会場で活発な質疑が行われ、高温対策について考えるきっかけの場になったと感じています。

隠岐地域では、米の品質と収量向上を図るため、令和6年度は今回の研修会を含め全4回の開催を計画しています。次回は、6月中旬頃に「中干し」に関する研修会の開催を予定しています。根の活力向上に着目し、その為にできる取組として「中干し」の意義と効果について深掘りしていきます。令和6年産米の品質・収量の向上に資する研修会となるよう努めたいと思います。



4/8 海士町会場



4/9 隠岐の島町会場